

iii 三学出版

ヴィゴツキー学 ～ 全10巻 ～

ヴィゴツキー学協会の研究誌『ヴィゴツキー学』

ヴィゴツキー学協会が土井捷三（現在・神戸大学名誉教授）のよびかけによつて結成されたのは、1998年のことであった。以来、年2回の研究集会の開催とその成果を掲載する『ヴィゴツキー学』の発刊が継続的に行われてきた。この研究誌には、研究集会で発表内容にもとづいた論文と、まだ翻訳されていないヴィゴツキーの論文等の翻訳とが、収録されている。

内容的には、ヴィゴツキー理論の原理にかかわる文化－歴史的理論、発達、内化、言語、人格、情動などの概念を解明しようとする論文、第二言語にかかわる理論と問題、遊び論、発達の最近接領域、障害学などの原理と実践とをつないでいく論文などが、収録されている。また、翻訳については、その当時にはまだ未訳のヴィゴツキーの論文が取り上げられ、その後、翻訳書のなかに収録されたものも多い。

心理学、教育学、哲学に関心をもつ人には、有意義な論文、翻訳を目にすることができるであろう。

<学術機関向け価格>

1 アクセス： 34,400円（本体）

3 アクセス： 44,700円（本体）



『ヴィゴツキー学』第1巻～第10巻の主な内容

《第1巻》2000年3月

- ・論文 山住勝広：二重性をドラマへと開く—ヴィゴツキーの自己・人格・創造性論／ 土井捷三：日本におけるヴィゴツキーの受容—勝田守一『能力と発達と学習』について
- ・翻訳 ステファン・トゥルミン：心理学のモーツァルト／ ア・ア・レオンチェフ：心理学のモーツァルト（ヴィゴツキーはヴィゴツキーになる）／ エリ・エス・ヴィゴツキー：俳優の創造的仕事の心理学をめぐる問題について

《第2巻》2001年3月

- ・論文 保坂裕子：反射学から高次精神機能の文化—歴史的理論へ／ 土井捷三：アメリカにおけるヴィゴツキー・ディスカッション
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：子どもの発達におけるツールとシンボル／ エリ・エス・ヴィゴツキー：子どもの発達における道具と記号（第1章）／ エリ・エス・ヴィゴツキー：意識の問題

《第3巻》2002年3月

- ・論文 西本有逸：ヴィゴツキーと第二言語習得（1）—内言とワーキングメモリー／ 神谷栄司：ヴィゴツキーと危機的年齢の発達理論—生後一年目の危機について
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：年齢の問題／ エリ・エス・ヴィゴツキー：移行年齢における関心の発達

《第4巻》2003年3月

- ・論文 西本有逸：ヴィゴツキーと第二言語習得（2）—内化と習得
- ・資料 土井捷三：エリコニーダヴィドフ教授システムについて
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：子どもにおける道具と記号（第2章）／ エリ・エス・ヴィゴツキー：子どもにおける道具と記号（第5章）／ エリ・エス・ヴィゴツキー：情動にかんする学説—歴史的—心理学的研究（上）

《第5巻》2004年3月

- ・論文 神谷栄司：ヴィゴツキーの情動論と「人間の心理学」／ 土井捷三：内言論と対話の新しいヴィゴツキー理解／ 伊藤美和子：ア・ア・レオンチェフの言語活動理論とヴィゴツキー—ロシアにおける第二言語習得研究から
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：情動にかんする学説—歴史的—心理学的研究（中）

《第6巻》2005年3月

- ・論文 西本有逸：英語科教育における言語活動の再構築—言語活動の単位について／ 神谷栄司：ごっこ遊びのヴィゴツキー的分析／ 土井捷三：内言論を再考する—自己中心的言語の内言化と対話
- ・特別寄稿 ヴェ・テ・クドリャフツェフ：子どもの遊びと想像の発達—明らかかなことと明らかでないこと
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：情動にかんする学説—歴史的—心理学的研究（下）

《第7巻》2006年7月

- ・論文 田中雄二：概念的思考に支えられた確かな学びの構築—多声的な場における言語的相互作用を通して
- ・特集 第二言語習得の問題／ 佐藤雄大：第二言語習得における「最近接発達の領域」／ 西口光一：言語的思考と外国語の学習と発達／ 西本有逸：ヴィゴツキーの分析単位の英語科教育への応用
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：文化的—歴史的な精神発達の理論（第8章）／ エリ・エス・ヴィゴツキー：文化的—歴史的な精神発達の理論（第10章）／ エリ・エス・ヴィゴツキー：イジエフスク版「年齢の問題」

《第8巻》2007年7月

- ・論文 伊藤美和子：ヴィゴツキーの人格論—構造・意味・社会・ドラマからの探求
- ・特集 ヴィゴツキー情動の理論の検討／ 茂呂雄二：ヴィゴツキー/スピノザ—社会的情動過程としての言説／ 木下孝司：今日の乳幼児研究からみた情動理論への期待
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：児童学における環境の問題

《第9巻》2008年7月

- ・論文 アレクセイ・パルキン：第二言語学習についてのヴィゴツキーのアイデア／ 木村裕三：韓国学校英語教育を支える教師の動機づけ：社会文化理論による質的データの読み取り／ 西本有逸：情動過程と知的過程との統一／ 竹岡志朗：組織学習論の新たな基礎の探求—発達の最近接領域の概念からのアプローチ
- ・特集 「発達の最近接領域」の理論と教育実践／ 平田知美：教育評価としてのダイナミック・アセスメント—算数授業における事例研究を手がかりに／ 堀村志をり：ヴィゴツキーの遊び論における最近接発達領域—スピノザ哲学からの一考察／ 榊原義夫：発達障害児の運動発達の最近接領域を探る
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：心理システム

《第10巻》2009年7月

- ・論文 岡花祈一郎・七木田敦：ヴィゴツキー発達論における障害学の位置づけ／ 森岡正芳：ヴィゴツキーと精神分析—その内的理解に向けて／ 西本有逸：ヴィゴツキーの存在論と意識の問題
- ・特集 ヴィゴツキー理論の最前線／ 百合草禎二：ヴィゴツキーは、いつ活動理論家になったのか／ 神谷栄司：情動の理論—ヴィゴツキーはスピノザをどう読んだか／ 土井捷三：ヴィゴツキー『教育心理学』をどう読むか—模倣と体験に関連して
- ・翻訳 エリ・エス・ヴィゴツキー：人間の具体心理学

※ 表示価格は税抜きです。